

平成 27 年度 施策評価シート

基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	4. 多様な観光メニューの開発による観光の振興
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・町の歴史、文化、風景の魅力を再発見し、その魅力を観光客に提案することや、町のブランド品の魅力を高め、魅力あるおもてなしを提供するなど多様な観光メニューを開発します。 ・観光協会と協力・連携して、買い物を楽しめるような体制を整えるとともに、観光客が様々な思い出を持って帰宅する「通年型日帰り観光」の開発に努めます。 ・これらの取組にあたっては、町外の他の地域との広域連携にも努めます。

基本計画(分野別方針)事業名	実施計画 事業数	総合評価
(1) 観光まちづくりの推進	1	B
(2) 商工業の振興	1	B
(3) 中小企業への支援	2	A
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客に対する受け入れ体制が不十分となっている。 	

総合 評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き施策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 施策を推進するためには、事業を改善する必要がある D: 施策全体を見直す必要がある	B
	説明	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる誘客増に向けた情報発信強化のPRの検討が必要である。
	方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会の事業として、吾妻山公園や風致公園などの観光拠点を周遊する誘導PRと、近隣県や近隣市町に向けた観光のシティ・セールスを積極的に情報発信していく。 また、観光客のニーズを精査して、観光協会、商店会、各事業者が連携を図りながらおもてなしの受け入れ体制を充実させていく。

◎最終評価者[庁内評価委員会]		
A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き施策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 施策を推進するためには、事業を改善する必要がある D: 施策全体を見直す必要がある	B	
意見等	<ul style="list-style-type: none"> 観光事業を推進するため、町内外に向けての誘客PRを強化し、あわせて各種団体が連携を図り、受け入れ体制を充実させ、町の商業振興を図っていく必要がある。 	

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	4. 多様な観光メニューの開発による観光の振興
分野別方針	(1) 観光まちづくりの推進
実施計画事業	観光まちづくり推進事業(No.60)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	観光振興対策事業	100.0%	B
02			
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	・観光協会の運営方法を含めた今後あり方の検討		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	観光振興を推進するため、各種イベントの実施により、観光客の集客に努めた。既存イベントのマンネリ化傾向が見受けられるため、事業内容の検討を行っていく必要がある。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	平成27年度は、町制施行80周年を迎え、記念事業を実施するが、来年度に向けて、観光協会の運営方法やあり方について検討を行う。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	観光事業推進を図るうえで、観光協会と商工会が連携を密にして、より実施効果の高い事業や相乗効果の創出を目指していく。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	4. 多様な観光メニューの開発による観光の振興				
分野別方針	(1) 観光まちづくりの推進		実施計画事業	観光まちづくり推進事業 (No.60)				
予算等事業名	観光振興対策事業							
目的	町の観光振興を目的とし、観光客の来訪促進を図る。							
内容	町の観光振興を目的とし、観光客の来訪促進を図る。							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	自主財源確保やイベント事業、法人化などについては、理事会等での再度の議論を経て、慎重に方向性を定めていく必要がある				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	80周年事業の実施		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	イベント事業の見直しや本来業務のあり方について、理事会等で議論していく		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 観光協会の目指すべき方向性について、理事会等で再度議論していく。	

総合評価

実績	観光協会への補助及び育成 観光事業の開催(観光フォトコンテスト、ふるさとまつり、よさこいパレード、菜の花ウォッチング等) 観光パンフレットの印刷(リニューアル)		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	観光客数		
前期(27年度)目標値	55万人		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度 44万人	平成26年度 44万人	平成27年度 —
			直近5年間で最多の観光客数(平成22年1~12月) 実績値は年単位(1~12月)で計上

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		10,674	10,503	10,366	10,361		
財源内訳	一般財源	10,674	10,503	10,366	10,361		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 当事業は、観光誘客による町経済の活性化を目的としており、公費の投入は妥当と考える。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 事業主体となるべき観光協会の育成と、一次産業や二宮ブランド事業との連携も考慮すると、町が実施すべき事業である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 観光客数は天候に左右されるところもあるが、メディア露出機会も増え、二宮町の存在感自体は向上している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 観光協会の自主財源率の向上と効果の高い事業への選択と集中が必要。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 観光協会の育成と自主財源率の向上、事業の選択と集中を図りながら、今後も継続的に事業を推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	観光事業の有効性・効率性の向上を図りつつ、観光誘客を産業分野に結び付けていく取り組みを進める。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	観光振興のため、引き続き推進する必要がある。		
今後の方向性	観光協会の組織の検討を行うほか、自主財源の確保を推進する。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	4. 多様な観光メニューの開発による観光の振興
分野別方針	(2) 商工業の振興
実施計画事業	商工業振興対策事業(No.61)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	商工業振興対策経費	98.9%	B
02	商店街景観形成事業	84.7%	B
03	起業家支援事業	—	A
04			
05			
課題 (箇条書き)	・北口通り商店会の景観形成事業に対する取組み姿勢		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	商業振興のため、商工会、商連の助成を引き続き推進する必要がある。 商店街を花で彩り、消費機会の拡大の一助となるとともに、「ちよいワザ商人講座」の開催で、個人商店の良さをアピールできた。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	平成27年度予算から商工会が町補助金の依存体制から、国・県補助金を確保できるような事業展開にシフトした。 また、商店街景観形成事業の事業主体を商店会に移行する。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	商工業振興の観点から事業継続は必要であるが、行政関与の見直しを検討していく。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	4. 多様な観光メニューの開発による観光の振興				
分野別方針	(2) 商工業の振興		実施計画事業	商工業振興対策事業 (No.61)				
予算等事業名	商工業振興対策経費							
目的	町内中小企業の健全な育成振興を目的とし、町商工会を始め、各商店の機能が十分発揮されるよう組織の育成・強化を図る。							
内容	町内中小企業の健全な育成振興を目的とし、町商工会を始め、各商店の機能が十分発揮されるよう組織の育成・強化を図る。							
根拠法令・条例等	二宮町商店街街路灯維持管理補助金要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		街路灯の経年劣化と電気料金の値上げ						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由								

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 商店街の景観づくりと、防犯灯としての機能の両面を踏まえ、今後も補助を継続していく。							

総合評価

実績	町商工会、商店連合協同組合(商連)への補助						
中間評価との相違点	—						
事業指標(数値指標)	商工会会員数						
前期(27年度)目標値	538			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	会員数の現状維持			
	538	533					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		11,255	11,032	11,215	11,094		
財源内訳	一般財源	11,255	11,032	11,215	11,094		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 商工会・商連ともに、商工業者の集積や異業種交流など、会員相互のレベルアップとスケールメリットを生かした共同活動を目的としており、町の目指す商工業振興には欠かせない団体である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 商工会・商連の育成と、一次産業や観光事業との連携も考慮すると、町が実施(補助)すべき事業である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 町内中小企業の大半を占める個人店舗の減少に歯止めがかかっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 補助金額は、他市町に比べ決して高額ではないが、商工会・商連の育成強化を進め、会員にとってよりメリットのある事業を追求する必要がある。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 成果は中々目に見えるものではないが、商工会・商連の目指す方向は町と同じであり、有効性と効率性の改善を図りつつ、継続的に実施していくものとする。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	町内中小企業の振興は、町経済の活性化、買物弱者の救済、商店街形成による地域コミュニティの造成など、様々な側面で効果があるため、商工会・商連の育成を更に進め、存在感を強めるためにも、会員にとってよりメリットのある事業を実施するよう働きかける。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	商業振興のため、引き続き推進する必要がある。		
今後の方向性	商工会、商連に国・県補助金を活用やイベントの見直しを促し、町がどの程度補助していくのか検討していく。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	4. 多様な観光メニューの開発による観光の振興				
分野別方針	(2) 商工業の振興		実施計画事業	商工業振興対策事業 (No.61)				
予算等事業名	商店街景観形成事業							
目的	町内中小企業の健全な育成振興を目的とし、町商工会を始め、各商店の機能が十分発揮されるよう組織の育成・強化を図る。							
内容	町の商業振興を目的とし、商店街の景観整備を図る。							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		事業主体を商店会へと継続的・段階的に移行していく						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		事業主体を商店会へと継続的・段階的に移行していく						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							B
	【説明】 事業主体を商店会へと継続的・段階的に移行しつつ、本来の目的である商業振興につながるようなイベントを開催していく。							

総合評価

実績	ガーデニングサポーター講習会開催(12回・サポーター数17名) ハンギングバスケット50灯、花壇3箇所、フラワーポット60個の装飾及び手入れ ちよいワザ商人講座の実施(1回)						
中間評価との相違点	—						
事業指標(数値指標)	サポーター数						
前期(27年度)目標値	40名			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成25・26年度 各20名			
	16名	25名					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,370	2,228	2,500	2,117		
財源内訳	一般財源	2,370	2,228	2,134	1,751		
	国庫支出金						
	県支出金			366	366		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 北口通り商店街の場の価値の向上による商業振興に加え、駅からラディアンまでを結ぶ主要導線である北口通りの景観形成は、観光的なおもてなしの側面も持ち合わせている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 サポーターの育成と事業の土台整備までは町がおこない、将来的には商店会に主体を移行していく。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 平成26年度はサポーター育成に主眼を置いており、概ね成果は上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	C
	【説明】 多額な講師謝礼、花の苗代など、多くの費用と労力がかかっている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 サポーター育成は概ね良好に進んでいるが、年齢的・体力的な不安要素もある。水やりは商店会等に移行したものの、商店会が自主運営していくための道筋づくりが必要。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平成27年度は、サポーター育成の3年目にあたり、花と緑で演出した街並みづくりは概ね良好である。 当事業を商業振興へと繋げていくため、26年度に引き続き、「ちよいワザ商人講座」を開催する。 また、商店会との役割分担や主体の移行も徐々に進めていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input checked="" type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	町が協力して事業に関わっていくが、事業主体を商店会に移行すべき。
今後の方向性	水やりなど一部維持管理は商店街が主体となったものの、全体的には関与が薄い。一方、店先イベントとして実施した「ちよいワザ商人講座」は成功をおさめることができた。今後はこの講座を中心に展開していく。

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	4. 多様な観光メニューの開発による観光の振興
分野別方針	(3) 中小企業への支援
実施計画事業	中小企業支援事業(No.62)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	中小企業金融対策事業	93.9%	A
02			
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	・特になし		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	説明	中小企業の健全育成の寄与している制度である。	

方向性			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	継続して実施していく。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	中小企業の健全育成の観点から、事業継続は必要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	4. 多様な観光メニューの開発による観光の振興				
分野別方針	(3) 中小企業への支援		実施計画事業	中小企業支援事業 (No.62)				
予算等事業名	中小企業金融対策事業							
目的	中小企業の健全な育成を図るため、指定金融機関に資金を預託し融資制度を設け、併せて資金の利用者に対し、信用保証料及び利子の補助をする。							
内容	中小企業の健全な育成を図るため、指定金融機関に資金を預託し融資制度を設け、併せて資金の利用者に対し、信用保証料及び利子の補助をする。							
根拠法令・条例等	二宮町中小企業信用保証料補助要綱 二宮町中小企業金融対策資金利子補助要綱 二宮町中小企業金融対策資金預託要項							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		中小企業への融資額の増額は、地域経済活性化につながっている						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由								

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 中小企業振興の根幹となる制度であるため、今後も制度を継続する。							

総合評価

実績	中小企業金融対策資金預託金(町内信金・融資限度額2億円)						
	中小企業信用保証料補助						
	中小企業貸付金利子補助						
中間評価との相違点							
事業指標(数値指標)	融資残高						
前期(27年度)目標値	1億4,000万円			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	融資限度額の70%			
	1億342万円	1億3,682万円					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		13,341	12,467	13,390	12,578		
財源内訳	一般財源	3,341	2,467	3,390	2,578		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	10,000	10,000	10,000	10,000		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町融資制度や利子補助等は、中小企業の健全な発展・運営を図るための根幹的な事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町融資制度や利子補助等は、中小企業の健全な発展・運営を図るための根幹的な事業である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 利率や融資額の設定を改善したことにより、積極的な活用が図られている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 事業経費の大半は預託金であり、町からの持ち出しは少額である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 運営状況は概ね良好といえる。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	町融資制度や利子補助等は、中小企業の健全な発展・運営を図るための根幹的な事業であり、県や他市町の状況の把握に努め、今後も改善を重ねながら、継続的に事業を実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	妥当な制度である。		
今後の方向性	今後も継続していく。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	4. 多様な観光メニューの開発による観光の振興
分野別方針	(3) 中小企業への支援
実施計画事業	勤労者福祉対策事業(No.63)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	勤労者福祉対策事業	95.6%	A
02	中小企業退職金共済制度補助事業	85.2%	A
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	・特になし		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	説明	勤労者生活資金の確保、中小企業の雇用の安定に資する事業である。	

方向性			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	引き続き事業を行っていく。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	勤労者福祉及び中小企業雇用安定に資するため、事業継続は必要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	4. 多様な観光メニューの開発による観光の振興				
分野別方針	(3) 中小企業への支援		実施計画事業	勤労者福祉対策事業(No.63)				
予算等事業名	勤労者福祉対策事業							
目的	町内在住、在勤の勤労者の福祉の向上と生活の安定を図る。							
内容	町内在住の勤労者に対する福祉の増進と生活の安定向上を目的とし、勤労者生活資金融資預託等を推進する。							
根拠法令・条例等	二宮町勤労者住宅資金利子補給要綱 二宮町勤労者生活資金融資要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		勤労者への生活資金融資は、福祉の増進と生活の安定向上に繋がっている。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		現状、効率化を繰り返して来ている中での計画であるため。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 計画未実施のため継続の必要性がない(休止・廃止)					A
	【説明】 勤労者に対する福祉の向上に繋がる制度であるため、今後も制度を継続する。					

総合評価

実績	勤労者住宅資金利子補助 勤労者生活資金融資預託金 労働団体等への補助				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	生活資金融資の新規貸付額				
前期(27年度)目標値	435万円			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	直近5年の最多貸付額(平成23年度)	
	326万円	344万円			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		22,207	21,426	22,208	21,241		
財源内訳	一般財源	2,207	1,426	2,208	1,241		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	20,000	20,000	20,000	20,000		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 庁内在住の勤労者に対する福祉の増進と生活安定の向上を目的とし、定住促進にも繋がる。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 庁内在住の勤労者に対する福祉の増進と生活安定の向上を目的とし、定住促進にも繋がる。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 勤労者への生活資金融資の貸付額は低下しており、更なる周知が必要。しかし、労働団体への活動補助及び、労働衛生相談などを総合的に考えると、勤労者の福祉にも寄与している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 預託金が事業経費の大半を占めており、町からの持ち出しは少額である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 庁内在住の勤労者に対する福祉の増進と生活安定の向上を目的とし、定住促進にも繋がる事業であることから、継続して事業を実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	事業を継続的に実施しながら、勤労者生活資金融資の周知と利用促進を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	目的と費用対効果を踏まえ、現状どおり推進する。		
今後の方向性	引き続き推進する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	4. 多様な観光メニューの開発による観光の振興				
分野別方針	(3) 中小企業への支援		実施計画事業	勤労者福祉対策事業 (No.63)				
予算等事業名	中小企業退職金共済制度補助事業							
目的	町内在住、在勤の勤労者の福祉の向上と生活の安定を図る。							
内容	町内の中小企業が雇用する従業員の福祉の向上と雇用する従業員の福祉の向上と雇用の安定化を図るため。							
根拠法令・条例等	二宮町中小企業退職金共済制度奨励補助金交付要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		町内在住、在勤の勤労者の福祉の向上と生活の安定化を図っている。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		現状、効率化を繰り返して来ている中での計画であるため。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 計画未実施のため継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 町内の中小企業が雇用する従業員の福祉向上と雇用安定化に繋がる制度のため、今後も制度を継続する。							

総合評価

実績	中小企業退職金共済制度奨励補助金							
中間評価との相違点	—							
事業指標(数値指標)	加入事業者数							
前期(27年度)目標値	40事業所				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成25年1月の制度改正により、事業者数が減少していくと予想されるため、平成25年度事業者数の現状維持を目標とした				
	40事業所	44事業所						

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,978	3,758	1,620	1,380		
財源内訳	一般財源	3,978	3,758	1,620	1,380		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町内の中小企業が雇用する従業員の福祉向上及び雇用安定化を図ることを目的としているため	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町内の中小企業が雇用する従業員の福祉向上及び雇用安定化を図ることを目的としているため	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 近隣市町に比べて、多少手厚い制度となっており、中退共制度への加入促進につながっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 平成25年1月に制度改正をしてから、適正な補助率となっている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 町内の中小企業が雇用する従業員の福祉向上及び雇用安定化を図ることを目的としているため、継続的に実施する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	町内の中小企業が雇用する従業員の福祉向上及び雇用安定化を図ることを目的としているため、継続的に実施する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	中小企業の雇用の安定化を図るため必要である。		
今後の方向性	引き続き推進する。		